

日本語学習者のための電子辞書編纂の基礎調査

辞書利用についてのアンケート調査

金庭 久美子（横浜国立大学）

共同研究者 川村よし子・前田ジョイス（東京国際大学）

1. はじめに

語学学習には辞書が必需品であり、学習者の手元には必ず辞書がある。近年辞書の電子化が進み、学習者はさまざまな携帯用電子辞書を持つようになった。また、インターネット上の無料 web 辞書の利用も多いようである。日本語学習者にはどのような学習用の web 辞書を提供したらよいのだろうか。

本稿は、「辞書ツール多言語化プロジェクト」(川村よし子 2004)の一環として行った電子辞書編纂のための基礎調査のうち、「日本語学習者の辞書利用についてのアンケート調査」について報告する。本研究では、国内外の日本語学習者を対象にその利用状況を調べ、その結果をもとに辞書ツールの多言語化の開発に役立てることを目的とする。

2. 先行研究

辞書の利用状況についての先行研究は、これまでに、国語辞典と英和辞典の利用状況(『言語生活 第三八八号』(1984))、国語辞典の利用に関するアンケート調査(湯浅 1996)、学習英和辞典の利用に関する調査(佐藤(1995)、西村・須賀・鷹屋(2000)、畠山(2001))、英和辞書指導に関する教員の意識調査(井上・多良 2004)等がある。いずれも日本語母語話者を対象としたものであって、日本語学習者についての報告はまだないようである。このうち、日本人を対象にした調査である『言語生活 第三八八号』(1984)は、国語辞典と英和辞典をどのようなときに使っているかを示しており、日本語学習者の利用方法との違いを見る上で興味深い。

3. アンケートの質問項目の選定

本研究における辞書の開発にあたって、次のような目標を掲げた。

インターネット上の web 辞書であっても普段使用している本の辞書や電子辞書と同様に使えるようにすること、学習者の母語を配慮した辞書にすること、学習レベルに応じた辞書の利用を可能にすること、日本語学習者が求める項目を新しい web 辞書に盛り込むこと、インターネットの特性を生かした辞書作りをすること、である。

そのため、辞書利用についてのアンケートでは、まず、については、現在学習者が使用している辞書形態と、その利用の仕方について見ることにした。アンケートの質問項目は、前述の『言語生活 第三八八号』(1984)に倣って、現在の辞書項目のどの箇所に学習者の目が向けられているか見ることにした。

次に、については学習環境(漢字圏・非漢字圏)の違いによって使い方に違いはあるかどうか、さらに については学習レベルと辞書利用の関係についても調べることにした。このため、国籍と学習レベルを申告してもらうことにした。そして、については学習者

のweb辞書利用状況と、web辞書利用についてどんなニーズがあるか自由に記述してもらい、見ることにする。ここでは、和英辞典、または日本語と母語で書かれている辞書をバイリンガル辞書、国語辞典を日日辞書と呼ぶことにする。

以下、アンケート内容である。

1. あなたの日本語のレベル	初級・中級・上級
2. 国籍	
3. 利用している辞書の順位	本の辞書() 電子辞書() web辞書()
4. バイリンガル辞書の利用	
利用度	読むとき いつも、しばしば、ときどき、たまに、全然 書くとき いつも、しばしば、ときどき、たまに、全然
利用方法	読み方、書き方、意味用法、文法、慣用句、発音・アクセント、例文、その他 (複数回答可)
5. 日日辞書の利用	
利用度	読むとき いつも、しばしば、ときどき、たまに、全然 書くとき いつも、しばしば、ときどき、たまに、全然
利用方法	読み方、書き方、意味、文法、慣用句・連語、発音・アクセント、例文、その他 (複数回答可)
6. インターネット上で使っているweb辞書名(使用している場合)	
7. インターネット上で使えるweb辞書の希望(自由記述)	

4. アンケートの実施

アンケートは2005年3月から5月にかけて、国内と海外の日本語学習者228名を対象に辞書利用のアンケート調査を行った。国内では、東京近郊の大学に所属する学習者に依頼した。また、海外では、スロベニアのルブリャーナ大学、トルコのチャナッカレ・オンセキズ・マルト大学、オーストリアのグラーツ大学の協力を得た。228名の国籍・学習レベルは表1の通りである。学習レベルは自己申告のため未記入者もあった。

表1 アンケート対象者の内訳

	国籍	初級	中級	上級	申告なし	計
漢字圏 国内 106名	中国	2	22	14	7	45
	台湾	5	12	0	2	19
	韓国	9	22	4	7	42
非漢字圏 国内 41名	アメリカ	4	6	2	1	13
	イギリス	3	0	1	0	4
	インドネシア	0	1	1	0	2
	ウイグル(中国)	0	1	0	0	1
	オーストラリア	2	1	0	1	4
	カナダ	1	1	0	0	2
	カンボジア	0	0	2	0	2
	タイ	0	0	1	0	1
	ドイツ	0	1	1	0	2
	ハンガリー	0	0	1	0	1
	ブラジル	1	1	0	0	2
	ベトナム	0	1	2	1	4
	メキシコ	0	1	0	0	1
	モンゴル	0	1	1	0	2
	海外 81名	スロベニア(*1)	23	17	6	8
トルコ		0	18	6	0	24
オーストリア		0	1	0	2	3
計	20か国	50	107	42	29	228

5. アンケート結果と考察

5-1 利用している辞書とその頻度

1) 結果

利用している辞書は何かを尋ねた。結果は、表2の通りである。

学習環境の面から見ると、漢字圏の学習者（以下漢字圏）は電子辞書を多く利用している（84％）。また、漢字圏（3％）より非漢字圏の学習者（以下非漢字圏）（16％）の方が web 辞書の利用が多い。学習レベル別にみると、電子辞書の利用はレベルが上がると上昇する。

表2 日本語学習者が最もよく利用する辞書（単位％）

	一番よく使う辞書	利用する	利用しない	学習環境		レベル別			
				漢字圏	非漢字圏	初級	中級	上級	申告無し
本の辞書	29	81	19	15	41	46	27	21	17
電子辞書	67	92	8	84	52	46	68	81	76
web辞書	9	74	26	3	16	14	11	5	7

どの程度辞書を利用するか尋ねたところ、表3（バイリンガル辞書）、表4（日日辞書）のようになった。アンケート調査では「読む時」と「書く時」について尋ねたが、両者の差が見られなかったので、「読む時」について見ることにする。

表3 バイリンガル辞書の読む時の利用頻度（単位％）

	読む時全体	学習環境		レベル別			
		漢字圏	非漢字圏	初級	中級	上級	申告無し
いつも	32	23	39	28	33	38	31
しばしば	27	25	31	30	26	21	34
ときどき	21	25	18	26	23	12	14
たまに	13	20	8	4	12	24	17
全然	6	8	3	12	5	5	0
無回答	1	1	0	0	1	0	3
計	100	100	100	100	100	100	100

表4 日日辞書の読む時の利用頻度（単位％）

	読む時全体	学習環境		レベル別			
		漢字圏	非漢字圏	初級	中級	上級	申告無し
いつも	16	21	12	8	18	26	10
しばしば	14	18	11	12	13	14	21
ときどき	20	18	21	8	20	36	17
たまに	21	21	20	16	24	17	21
ぜんぜん	27	18	34	54	23	5	28
無回答	3	5	1	2	2	2	3
計	100	100	100	100	100	100	100

表3と表4の学習環境をみると、漢字圏はバイリンガル辞書も日日辞書も利用しているようである。非漢字圏はバイリンガル辞書を「いつも」が利用する者が多い（39％）が、日日辞書は、「ぜんぜん」と答える者が多く（34％）、利用は少ない。学習レベル別にみると、表3のバイリンガル辞書はレベルが上がるにしたがい、「いつも」と答える者が多くなるが、「たまに」と回答する者も増えている。一方、表4の日日辞書では、レベルが上がるにしたがい「ときどき」と答える者が増えるが、「いつも」利用する者はそれほど多くない。

2) 考察

辞書開発の面では、表2より電子辞書の利用が多いことから、今後同じような操作が可能になりネット環境が整えば、web辞書のユーザーが増えることが期待される。また、表3より、日日辞書よりバイリンガル辞書を多く利用していることから、現在編集中の日日辞書に対し、対訳作業を早急に行い、バイリンガル辞書として提供する必要性を感じた。

語彙教育の面では、表4より非漢字圏に積極的な日日辞書の利用が見られないことから、無理に薦めるのではなく学習状況を見て利用させる必要がある。上級学習者のバイリンガル辞書の利用が「たまに」に変わった理由として、辞書が不要になったか、日日辞書に移行していると考えられる。表3、4よりレベル別に利用頻度が異なる。特に中級以降は辞書を積極的に利用できる体制にあることから、辞書の利用を奨励し、上級では日日辞書の利用を薦めるとよいだろう。

5-2 辞書項目のどこに注目しているか

1) 結果

学習者は辞書の利用内容のどこに注目しているのであろうか。利用の多かったバイリンガル辞書のアンケートの結果(表5)を見た。

まず、学習環境を見ると、非漢字圏は他の項目に比べ、「(3)意味」に注目している(86%)。また、漢字圏と比べ、「(2)書き方」にも注目している(72%)。一方、漢字圏は非漢字圏に比べ「(6)発音・アクセント」を見ている(24%)。次に 学習レベル別に見ると、初級学習者は特に「(3)意味」に注目し(80%)、中級・上級学習者の約4割が「(7)例文」に、上級学習者の88%が「(1)読み方」に、33%が「(5)慣用句・連語」に関心を示す。

表5 バイリンガル辞書の利用内容 (単位 %)

	読む時 全体	学習環境		レベル別			
		漢字圏	非漢字	初級	中級	上級	申告無し
(1)読み方	74	75	73	68	70	88	76
(2)書き方(表記)	66	58	72	58	65	74	66
(3)意味	81	74	86	80	79	83	79
(4)文法	25	21	28	16	26	24	34
(5)慣用句・連語	23	22	24	12	25	33	17
(6)発音・アクセント	17	24	11	6	21	19	14
(7)例文(用例)	38	41	36	28	39	45	41
(8)その他	4	1	6	4	2	5	7

表6 日本人と中・上級日本語学習者における利用内容の比較 (順位)

	1	2	3	4	5
日本人(国語辞典)『言語生活388号』	1位 読み方	2位 意味	3位 書き方 (かなづかい)	4位 慣用句・連語	5位 発音・アクセント
上級の日本語学習者(日日辞書)	1位 意味	2位 読み方	3位 慣用句・連語	4位 書き方	4位 例文
中級の日本語学習者(日日辞書)	1位 意味	2位 読み方	3位 例文	4位 書き方	4位 慣用句・連語
日本人(1984)(英和辞典)『言語生活388号』	1位 意味	2位 書き方(スベル)	3位 読み方 (発音・アクセント)	4位 文法	5位 慣用句・連語
上級の日本語学習者(バイリンガル辞書)	1位 読み方	2位 意味	3位 書き方	4位 例文	5位 慣用句・連語
中級の日本語学習者(バイリンガル辞書)	1位 意味	2位 読み方	3位 書き方	4位 例文	5位 慣用句・連語

2) 考察

辞書開発の面では、非漢字圏が注目する「(2)書き方」に対し、文字の表示形式を検討すべきであること。初級学習者が特に「(3)意味」に注目していることから、意味がすぐわかるような辞書や記述が必要なこと。上級学習者の求める「(1)読み方」については見出し語を明確に示すこと。「(7)例文」「(5)慣用句・連語」に対する要求から、現在意味のみの編集集中の辞書に、例文、慣用句・連語の欄を設け、例文を示すことが必要であること等がわかった。

語彙教育面では、学習者の母語、学習者のレベルによって注目する項目が異なることから、辞書の全項目を見させるのではなく、レベルに応じた情報を与えるべきだということ。非漢字圏には漢字の「(2)書き方」がわかるようにすること、上級学習者が正確な「(1)読み方」に関心があることから、「読み」を利用した指導(語形成等)が可能であること、中・上級学習者が「(7)例文」「(5)慣用句・連語」の重要性を認識していることから、見せるべき例文の質が学習者の学習を促進すると考えられる。

前述の日本人の辞書の利用内容(『言語生活 第三八八号』(1984))と日本語学習者のものを比較したのが表6である。バイリンガル辞書と日日辞書の注目する項目の順位は日本人と日本語学習者が微妙に異なることから、日本語学習者に適した辞書作りと指導が必要であることを改めて認識した。

5-3 利用している web 辞書と要望

1) 結果

日本語学習者が利用している辞書サイトは表7の通りである。

また、これらの web 辞書に対する要望を自由に記述してもらったところ、228 名中 158 名から回答が得られた。そのうち要望の多かった順に 15 位までを表8に示す。

表7 学習者が利用している web 辞書サイト

No.	サイト名	人数	利用者の国籍	URL
1	naver.com	21	韓国	http://www.naver.com/
2	yahoo	20	台湾・中国・ベトナム・米メキシコ	http://dic.yahoo.co.jp/
3	理解.com	18	トルコ	http://www.rikai.com/perl/Home.pl
4	Jim Breen's WWWJDIC	15	米・オーストラリア・スロベニア	http://www.csse.monash.edu.au/jwb/wwwjdic.html/hwr/wwwjdic_hwr.html
5	Reading Tutor	14	トルコ・スロベニア・オーストラリア・中国	http://language.tiu.ac.jp/
6	Excite	5	中国・台湾・カンボジア	http://www.excite.co.jp/dictionary/
7	Altavista Babel Fish Translation	3	カナダ・イギリス・スロベニア	http://world.altavista.com/
8	goo	2	中国・韓国・スロベニア	http://dictionary.goo.ne.jp/
9	google	2	中国・台湾・カンボジア	http://www.google.co.jp/language_tools
10	その他	5		
11	記述のサイト先不明	27		

表8 web 辞書に対する要望 (単位 人)

No.	要 望	漢字圏	非漢字圏	全体
1	例文が多い	17	17	34
2	英語以外のバイリンガル辞書	8	24	32
3	多言語併記辞書	14	17	31
4	文法や用法の説明がわかりやすく、詳しい	8	14	22
5	漢字のケア	3	12	15
6	検索が早い、ひきやすい	4	10	14
7	発音・アクセント	10	2	12
8	語彙が豊富	1	10	11
9	画面が見やすい・使いやすい	2	8	10
10	会話体の表現	7	2	9
11	例文の対訳	0	8	8
12	学習者向け日日辞書	6	1	7
13	表示形式	0	7	7
14	類似表現の比較	4	3	7
15	慣用語	2	4	6
	その他	12	16	28

2) 考察

表7より学習者が主として利用しているのは、大手検索エンジンの持つ辞書サイトであり、日本語教育向けのサイトの利用はそれほど多くはない。今後開発中の辞書を利用してもらうには宣伝が必要である。表8より特に興味深かったのは、学習者が普段使う辞書で用例を見ているのにもかかわらず、まだ例文や文法・用法に対するニーズが高い。質の高い例文とわかりやすい用法説明が必須である。英語以外のバイリンガル辞書の要望に対しては早急に対応すべきである。また、多言語同時併記辞書の要望に驚いた。国際化時代になり、第二、第三言語を同時に学習しようとしているのであろう。さらに、検索方法については「検索ボックスが1カ所で意味や例文等の検索ができるもの」、「検索の入力文字が漢字、ひらがな、ローマ字のいずれでもできるもの」等の助言が得られた。そして、漢字圏が普段使う辞書では「発音・アクセント」に注目していたが、web 辞書では音声出力も希望している。非漢字圏は普段使う辞書では「書き方」を見ていたが、ここでも漢字のケアや表示形式に対するニーズが高い。これらを踏まえて、開発中の辞書を完成させなければならない。

6. まとめ

1) より使いやすいweb辞書に

以上のことから、開発中のweb辞書に手を加えることにした。

普段と使用する辞書と同様の辞書にする

「意味」: 最も意味に注目することから、学習者向けのわかりやすい日本語で記述。

「例文」: 現在例文入力を開始。会話体の表現の希望があり、それを取り入れた。

「文法・用法」: 必要があればわかりやすい日本語で説明を添える。

「表示形式」: ふりがな.ver とふりがななし.ver の選択、漢字の表示サイズ等検討中。

学習者の母語を配慮

「対訳」: スロベニア語、ハンガリー語、英語、仏語の入力を開始。

学習レベルに応じた辞書: 初級向けの一語一訳のミニ辞書の開発

日本語学習者が求める項目、並びに インターネットの特性を生かした辞書

学習者の要望より、辞書情報の検索方法を検討中。

この開発中のweb辞書は、<http://marmot.chuta.jp/> で公開している。

2) 語彙教育

教師は学習環境や学習レベルを考慮し、学習者に負担がないように辞書利用の指導を行う必要がある。また、辞書の利用のきっかけを作り学習者の自己学習を支援する立場でありたい。web辞書の特性として、大勢の学習者が同時に同じ辞書を利用することが可能であり、今後クラスでの新たな利用方法を考えたい。

謝辞: アンケートにご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

参考文献

井上祐子・多良静也(2004)「英和辞書指導に関する教員の意識調査と現状」『高知大学教育学部研究報告(64)』pp.69-80 高知大学教育学部

川村よし子(2004)「辞書ツール多言語化プロジェクトの基本構想」『ヨーロッパ日本語教育 Vol.8 第8回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム論文集』pp.89-94

言語生活編集部(1984)「アンケート 辞書の利用状況」『言語生活 第三八八号』筑摩書房

佐藤洋(1995)「学習英和辞典をめぐる調査 - 英和辞典はどう役立っているか」『学苑 663号』pp.20-29 昭和女子大学

西村公正・須藤廣・鷹屋秀史(2000)「学習英和辞典はどのように利用されているか?」『関西学国語大学 研究論集 71号』pp.277-293 関西外国語大学

畠山豪(2001)「辞書指導の必要性和重要性--大学生の学習英和辞典の利用に関する調査から」『盛岡大学英语英米文学会会報(12)』pp.60-68 盛岡大学英语英米文学会 編/盛岡大学英语英米文学会

湯浅茂雄(1996)「辞書と言語文化 - 国語辞典の利用に関するアンケート調査から」『国文学解釈と教材の研究 41(11)』pp.102-107 学灯社